

平成28年11月21日開催 第1回美祢市総合教育会議議事録

開催日時 平成28年11月21日(月)午後1時30分から午後2時25分

開催場所 美祢市役所3階 委員会室

出席者	西岡 晃	市長
	岡崎 堅次	教育長
	前田 耕次	教育委員
	井上 敏雄	教育委員
	秋山 信登	教育委員
	金子 明美	教育委員

6人

出席教育委員会事務局職員	金子 彰	事務局長
	末岡 竜夫	事務局次長
	千々松雅幸	〃 教育総務課長
	長谷川 裕	〃 学校教育課長
	古屋 敦子	〃 生涯学習スポーツ推進課長
	井上 辰巳	〃 文化財保護課長
	石川 博之	〃 美東事務所長
	村田 活稔	〃 秋芳事務所長
	野尻 悟	〃 教育総務課長補佐
	大谷 光	〃 教育総務課総務係長
市長部局職員	石田 淳司	市長公室長
	山本 英樹	市長公室秘書係長

12人

開 会

金子事務局長

ただいまから、平成28年度第1回美祢市総合教育会議を開催します。私は、事務局長の金子でございます。どうぞよろしく申し上げます。まず、開会にあたりまして、西岡市長が御挨拶申し上げます。

西岡市長

皆さんこんにちは。今年度第1回目の美祢市総合教育会議を開かせていただきました。教育長・教育委員の皆さんには大変お忙しいなか、お集まりいただ

きまして、厚く御礼申し上げます。

本日の総合教育会議ですが、美祢市教育の課題やあるべき姿を、教育委員会の皆さんと共有できるように、意見を重ねてまいりたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。

金子事務局長

本日の会議の委員は、市長、教育長、教育委員によって構成されています。本来であれば、お一人お一人御紹介させていただくところではありますが、時間の都合がありますので、大変恐れ入りますが、お手元の名簿をもって紹介に代えさせていただきます。今後の議事進行につきましては、会議の主宰者であります市長にお願いします。

西岡市長

議事に入る前に、教育委員会では平成 25 年 3 月に策定した美祢市教育振興基本計画に基づき、様々な施策の展開をされており、昨年 5 月 29 日に開催された第 1 回の総合教育会議で、この美祢市教育振興基本計画をもって、美祢市の教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策の大綱として決定をされています。引き続き、この大綱を基本として更なる教育の充実に、一緒になって取り組んで行きたいと考えております。

それでは、議事 1「教育充実都市をめざして」に入りたいと思います。私は、市施運営の柱の一つに「教育充実都市」を掲げております。これまで以上に、未来を担う子どもたちの成長を支え、子どもの夢と未来が輝く、可能性を最大限に伸ばせるまちの実現をめざしたいと考えており、そのためには教育委員会との連携が不可欠でありますので、私の考えや思いを、まずお伝えしたいと思います。

4 つの大きな柱を考えております。

まず、1 つめとしては、「教育環境の整備」であります。具体的には、英語教育・A L T の充実、複式学級の支援・補助員の配置、通学路（外灯を含めて）、スクールバスの整備、給食センターの整備、貧困対策・教育格差の是正を考えています。

2 つ目の柱としては、「地域教育の充実」であります。具体的には、コミュニティ・スクールの充実、ジオ教育の全小中学校への推進、地域行事への積極的な参加であります。

3 つ目の柱としては、「国際教育の充実」であります。具体的には、台湾との交流拡大、英語圏への交流拡大、国際感覚と多様な価値観の教育であります。

4 つ目の柱としては、「参政権の必要性」であります。具体的には、政治の必要性と意義、子ども議会等による自己意識の醸成であります。これらについて、教育委員会の皆様のご意見をいただければと思います。

岡崎教育長

まず始めに、平成29年度予算を編成している時期に、機をとらえて総合教育会議を開催していただき、色々な意味のあることであり、感謝申し上げます。

市長には、市政方針の大きな柱の中に、「教育充実都市」を掲げていただき、具体的に市長の考えを聞かせていただきました。そこで、私の教育長としてのビジョンにつきまして、説明させていただければと思います。教育長就任以来、3つの柱を掲げております。

1つめは、「コミュニティ・スクールの充実」です。学校と公民館の連携強化が必要になってくると思います。自然やジオサイトの教材化をしていく、そして、市内に点在している歴史や文化財、それぞれの地域で開催されている行事、これも教育資源になっていくと思います。これは、市長の言われた「地域教育の充実」にあたりますので、また、意見交換を深めていければと思います。

2つめは、「教師力の向上」です。東京大学の市川先生のアドバイスを受けながら「教えて 考えさせ 定着させる授業」を推進しています。今年で5年目になりますが、継続的な取組みが重要であると考えています。質の高い教育を子どもたちに提供していきたいと思います。

3つめは、「小中学校の再編統合」です。小・中学校適正規模・適正配置基本方針にもとづき推進していくこととなります。これによって、3世代同居・近居を進めて、若者が定住し易い環境に繋げていくことが大事だと思います。若者が美祿市に戻って来ようとするときに、学校は大きなウェイトを占めます。例えば、小学校が複式であったり、中学校であれば部活動の選択肢が少ない状況とかが、美祿市に戻って来れない要因になっていると思います。そのために、通学の環境を整えて、複式学級等の解消が進めば、親の所に戻ってきて、3世代同居・近居が進み、人口も増えてくるのではないかと考えています。

市長から補助員の配置という話がありました。大嶺小学校の転落事案があり、いじめ調査委員会から8月19日に提言をいただきました。提言をいただいたなかで、問題児童への支援は排除ではなく、その声への支援であるとの提言がありました。これも、喫緊の課題であり、いじめ対策の大きな対策になると思います。それから複式学級への支援ということも言うていただきましたが、これも、子どもたちの学力の保証とか質の高い授業を提供するうえで、必要になってくると考えています。

それから、ALTの充実と言われました。ALTを1名増やしていただき4名体制にすることができたら、学校に直接配置することができるようになります。そのことで、生の英語に直接触れる機会が増えてくると思います。

最後になりますが、市長が掲げられる「地域教育の充実」は、私の考えるコミュニティ・スクールの充実と同じことと思います。

そこで、「充実」について、私なりの捉え方をお話しできたらと思います。これまで、美祿市も教育行政の充実に向けて、多くの事業に取り組んできました。事業をすれば、事業を計画する者もいるし、事業を実施する者もいます。

そして参加する者を募集しなければなりません。結構事業をすることに関しては、多忙感を伴うものと思います。教育行政を進めて行く上で、新たな事業を立ち上げていくのも一つあるかもしれませんが、児童・生徒を取り巻く環境、現場の学習環境が整うことが、充実に繋がっていくのではないかと考えています。強いて言えば、学校現場で頑張っている先生方の「ゆとり」がないと充実に繋がっていかないと考えます。どうしても、仕事に追われていくと、充実に目が向かない。そういったところに人的な「ゆとり」が必要と思っています。市長の言われる「充実」とは何を意味するのか、お考えをお聞かせ願えればと思います。

最初に私のほうから口火を切らしていただきましたが、教育委員の皆さんにもお願いしたいと思います。

西岡市長

まず、「教育充実都市」の「充実」という部分について、私の考えを少し述べさせていただきます。

「充実」とはこういったことをイメージしているかということ、時代に合った教育環境の整備が必要だと思っています。現在の子どもたちは、ICT環境の中で育ってきています。今後、働き方や生活のスタイルがこれによって大きく変わってくると思います。そういった時代のニーズを適切に捉えた教育を推進していかなければならないと思っています。また、地域の歴史や文化を大切に、志のある人間形成、人物形成ができる、そういった教育環境を整備していきたいと思っています。そうしたことによって、先ほど教育長が言われたとおり、親や子どもが美祢市で教育を受けさせたい、受けたいと、選んでいただけるような町づくりを進めていきたいと考えております。

そうしたことを全般的に捉えて、「充実」を図っていきたいと思っていますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

そこで、今申しました「教育環境の整備」と「地域教育の充実」について、絞って議論を進めたいと思ひますが、よろしいでしょうか。

(異議なしの声あり)

まず、「教育環境の整備」について意見交換をしたいと思ひますので、よろしくお願ひします。

前田委員

ただ今、市長の方から美祢市の教育充実のための取組みをお聞きしましたが、とても大切なことだと思っています。児童・生徒が安全・安心に学べるために大切なことは、教育環境の充実だと思っています。市長は、教師の負担軽減を考えられ、補助員の配置を考えられています。美祢市には、小規模校が大変多

く、複式学級も多くあります。現在、小学校17校中13校に複式学級があります。複式学級の授業は、御存じのとおりだと思いますが、2学年が同じ教室で授業を行います。担任にとりましては、2時間分の授業を1時間ですることになります。つまり、教師の負担が通常の2倍以上になります。大変負担が大きい。しかし、このような現状のなかで、美祢市の先生方はとても頑張っておられます。補助員の配置、複式学級の支援、これがつくことによって担任はどれだけ助かるであろうか。市長の方で具体的な考え方があれば、お聞かせ願えればと思います。いかがでしょうか。

西岡市長

複式学級に対する支援と言うことですが、先日、教育長とも話をさせていただきました。今、複式学級で前田委員が言われたように、教える方の負担が非常に大きくなっているということで、補助員を配置していただくと、教育にかけれる時間が増やせるし、ゆとりをもって教えることができるということをお伺いしました。私も、まさにその通りだと思っておりますし、そうした考えで補助員の配置をしていただけないかということで、教育長のほうに相談をさせていただいております。何名になるかについては、今から教育長並びに教育委員の皆さんと議論をさせていただくところではありますが、出来る限り、複式学級のところには配置できるような形をとっていきたいと思っています。それにつきましては、補助員になられる方の人選も必要なことだと思っておりますし、そのあたりについては、また、御指導いただければと思っています。

前田委員

ありがとうございます。現在小学校も統廃合が進んでおり、来年は東厚小と川東小が厚保小と一緒になるということで、段々、複式学級も少なくなってきましたが、この再編統合は、行政のペースで進めるわけにはいきません。地域と保護者に御理解をいただきながら進めていくことですので、今後も複式学級が続いていきますので、来年以降もおっしゃられるような支援をお願いしたいと思っております。

それから、先ほど、教育長が申しましたが、英語教育についてです。今、ALTが3人います。平成32年から3年生以上に英語が必須になります。したがって、現在でも窮屈であるので、到底足りないと思います。4名あるいは5名であれば、充実してくると思います。その辺のお考えもお願いしたいと思っております。

西岡市長

ALTについても、教育長とお話しさせていただきました。小学校では、5・6年生に英語科が、3・4年生に外国語活動が平成32年度から導入されることとなっています。今後、さらにグローバル化が進んで、英語が必要になって

くると思います。そうしたなかで、生きた英語、使える英語が小さい時から学べる環境をつくっていきたいと思っています。来年度は、1人増員できないかと、教育長にお願いしています。これが、さらに5人になったり、6人になったりということは、今後の課題であると思います。まずは、1名増員をめざし、取り組んで、その結果を来年度のこういった総合教育会議の中で、報告していただいで、それによって、次のステップを踏んでいきたいと考えています。

岡崎教育長

複式学級の充実ということもありますが、いじめの対応ということで、荒れる学級に学習支援員を現在も配置していますが、学級が荒れている、荒れそうなときに、補助員を配置していただくことも複式学級と同じように考えていただければと思います。また、心の教室を週に1回開設しています。なかなか学校・学級に入っていけない子どもがいた時に、救いの場になる適応教室をもう少し充実させていくことも大切だと思います。また、いじめ調査委員会の提言を受けてのいじめ対策としての補助員も考えていきたいと思いますので、また、よろしくをお願いします。

西岡市長

今、教育長から話のあった支援員・補助員の配置についてであります。いじめについては、どういったタイミングでそういったことが起こるか分からないと思いますし、そういった事案が起きた場合には、すぐに対応できる体制をとっておかないといけないと思いますので、しっかりとした体制をとっていきたいと思っています。

井上委員

市長が、最初にお話しをされたなかで、教育の充実の「充実」の内容で、時代にあった教育環境が望まれているということで、ICT機器のことが少し出ました。数年前から、ICT機器を授業に取り入れていくことを教育委員会側も推奨しています。今、一番あるのは電子黒板です。電子黒板以外でタブレットを使った授業に取り組んでいる学校も少なからずあります。今の子どもたちは、スマホを代表して、そういったICT機器に小さいころから慣れていまして、その機器をいかに授業に活用していくかが、長い間の課題になっています。教える先生も進まないというのがありますが、一番の課題は機器の数だと思います。電子黒板は全ての学校にあって活用されていますが、例えばタブレットを使った新しい授業を、来年すぐというわけではありませんが、授業の形態そのものが、今後変わっていく傾向にありますので、先ほどの教員の補助についても同じですが、やはり教育環境の充実のためには、少なからず予算が絡んでくる話なので、長い目で結構なので、少しお考え頂ければ、子どもたちも変わってくると思います。

西岡市長

私もそのように考えております。やはり、私たちが学んできた時代とは、様変わりしてきていると思います。こういったICT機器を活用した授業を取り入れていかないと、そこで教育環境そのものが遅れてしまうと、社会人になってから、いざやろうとしても、ハンディキャップがあるかと思えます。そのへんは、しっかりとした対策、また、充実した教育環境を整えていきたいと考えています。

秋山委員

地域の歴史や文化、ふるさと美祢の良さを知らせることによりまして、子どもたちに必要な能力や資質を育んでいただきたいと思います。それには、少なからず予算も必要になります。現在、全ての小・中学校で取り組んでいますので、引き続き推進していくためにも、予算措置を継続していただきたいと思います。

できれば、小・中・高校まで巻き込んだものが欲しいと感じています。

ICT教育環境も年々変わってきておりますので、これについても予算措置をお願いしたいと思えます。

西岡市長

地域の歴史や文化を大事にするといった心が、地域を愛する気持ちに繋がっていくものと思っています。そういった面についてももしっかり対応させていただきたいと思っております。高校までを巻き込んだ地域教育、文化教育につきましても、次のステップとして取り組んでまいりたいと考えております。

次に、「地域教育の充実」について意見交換をしたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。

金子委員

コミュニティ・スクールの充実について意見を述べさせていただきます。平成26年度から、市内の小・中学校全てがコミュニティ・スクールに指定されてきて、今年度が3年目と聞いています。保護者、地域の方々から惜しみない学校支援、前向きなご意見等によって充実した学校経営が進められています。子どもたちも、地域の人からしていただくだけでなく、地域に出かけ、自分たちの出来ることを行って、感謝の気持ちを表しているとも聞いています。平成27年度からは、中学校区で小中連携して9年間の成長を見据えて、学習・心・体の3本柱で、実態を踏まえながら、学校・保護者・地域が知恵を出し合って、共通の取組みを協働しながら、豊かな子どもたちの成長を支えながら地域とともにある学校づくりが進められており、素晴らしいことだと思っております。このコミュニティ・スクールを通して、地域の方とふれ合い、安心感、学ぶこ

との楽しさや地域の愛着や誇りを感じたり、貢献することにより自己肯定感を高めたりすることができていると思っています。地域の方からも、一緒に活動するのが楽しいとか、役に立ててうれしいとか、もっと学校に協力したいという声も聞きます。双方向の良さが現れていると思います。これは、まさしく、「人が育つ、人が輝く、教育の美祢」、「教育充実都市」に繋がるものと考えています。まだまだ、認知度が低いという課題があります。そこで、市長・教育長の提案にもありましたが、是非、公民館との連携を築かれて、地域と学校とのパイプ役をお願いできたらと思っています。公民館の職員の方にも、学校について御理解いただければと思っています。

西岡市長

公民館の活用だと思っています。地域を活性化させるのには、公民館の必要性があると思っています。金子委員から今お話がありましたが、コミュニティ・スクールを通じて、学校の児童・生徒が地域とのふれあい、そして繋がりをもっていくことが大変重要なことだと思っていますので、公民館の積極的な参加によって、その辺を充実させていきたいと思っています。したがって、公民館の職員には、また労力をかけるかもしれませんが、やはり、地域との架け橋になりますので、そのことは充実させていきたいと思っています。

岡崎教育長

コミュニティの充実を図っていく上において、公民館の存在が大きいという話を金子委員、市長からしていただきました。周辺市町の公民館長をみると、意外と校長OBが館長に就いています。美祢市の場合は支所を兼ねているということで、市の職員が公民館や支所の仕事をしています。それは、市の考え方でいいと思いますが、今後、学校と公民館が連携強化を図っていくためには、公民館長の資質や考え方が大きなウェイトを占めてきます。美祢市は、平成28年度も社会主事講習を市の職員が受講しました。社会教育主事の免許を市の職員が取るということは、社会教育の理解者が増えることになります。若い者が、そういう社会教育主事講習に早いうちから受講し、市の中で揉まれながら、公民館長に就かれたら、社会教育に通じた人材の配置に繋がると思います。他の市町と比べると、美祢市は、市の職員を多く社会教育主事講習に行かせています。胸を張って言えますが、まだまだ、これからもチャンスがあるので、市の職員に社会教育主事講習に参加してもらって、誰もが公民館長になっても、社会教育に通じた考え方や対応ができるよう、人材を育てて行けるといいと思っています。

西岡市長

私も就任してからすぐに公民館の今後の在り方を研究してくれということを示しています。地域で公民館をどのように活用していくか。そして、公民

館長が、もしかしたら、民間の人の活用ができるのではないかと、といったことも含め、公民館が地域でどういった立ち位置にあるのか、そして公民館を中心に地域が活性化できないかということの研究させていただいている最中です。そうした中で、公民館と小学校・中学校が連携し、地域を盛り上げていく、そういったコミュニティ・スクールを発展させていただければと思います。また、市の職員も社会教育主事講習に、積極的に行っていければと思っています。

岡崎教育長

ありがとうございます。公民館の職員が社会教育主事の講習を受けているということは、力強い後押しになると思います。学校も、開かれた学校ではありませんが、子どもたちの様子を地域の人に知っていただくためにも、学校施設を使って公民館活動を行う。公民館行事を学校のなかに取り入れることで、学校と地域の接点が増え、子どもたちも地域の事がよく分かってくると思います。学校には、公民館が持っている事業に対して企画の段階から携わってみたりとか、子どもたちが地域貢献をしていくという流れがあってもいいと思います。

西岡市長

まさしく、その通りだと思います。学校と地域が一体となって子どもを育てていくという取り組みが必要だと思っていますので、今言われたことについては、しっかり行っていきたいと思っています。

井上委員

今、公民館行事の話が少し出ましたが、公民館主催の行事、もしくは地域主催の行事とかに、子どもたちの参加が、最近増えていると実感しています。先日も、市長には、私の地元の祭りに来ていただき、ありがとうございます。子どもたちと地域の人たちが一緒に何かをするということは、双方にメリットがあって、今後も続けていかないといけないと思っています。そういった祭り以外でも地域の歴史探訪とか地域の方に講師をしていただいて、地域の良さを知ってもらうということは、年々増えてきていますし、子どもたちも積極的に参加してきているのではないかと実感があります。ちょっと中学生は、行事を開催するのが日曜日とかで、部活動等で参加が少なくなっているのは否めないですが、コミュニティ・スクール等を通じて、子どもたちと地域・学校と一緒に行事などをやることが増えてきているのは、いいことだと思っています。一点気になっているのが、子どもたちとは対照的に、先生方がなかなか、地域の行事や集まりにあまり出席されていないのが見えます。校長先生や教頭先生は役がありますので、出席等されますが、その他の先生方の顔を地域の方が知らないとかいうことがあります。先生方も参加したいと思いますが、教員としての業務が少し多いので、なかなか参加しにくいという声が耳に入ってきます。地域と子どもたちを繋ぐ学校です。先生方にももっと地域の方に入ってください

たいと地域の方からもお話しを聞いています。地域の教育を充実しようとするときは、先生方が地域に溶け込んで、どれだけ入ってくるかが、キーポイントになってくると思います。参加しやすいような体制づくり、一言で言うのは簡単で、それが一番難しいのですが、比較的にすっと入っていけるような体制がつかれるといいと思っています。

西岡市長

校長先生、教頭先生は役があって出て来られるということですが、他の先生方がなかなか難しいという話です。先ほどの話に少し戻りますが、そういった面でも複式学級の支援員を配置することによって、多少なりともゆとりを持っていただいて、地域の行事、地域のなかに溶け込んでもらって、先生にも地域の人を知ってもらうことが大事だと思います。そのことによって教育の環境も変わってくるのではないかと思います。コミュニティ・スクールの充実も含めた、複式学級の支援員とか、いじめ対策の支援員とか、こういったところも大きく絡んでくると思いますので、しっかりしていきたいと思っています。

秋山委員

来月にはジオの拠点、カルスターもオープンする予定です。将来的には博物館等も改修が課題ですが、この拠点整備については、子どもたちがワクワクするような、行ってみたいと思うような施設整備を望むものであります。昔は、吉則からバスも出ていましたが、今はなくなりました。これからのジオ活動で、美祢市全体を素晴らしい地域になるようにしていただきたいと思っています。特に、若者の定住を促進して、仕事の喜びを与えていただきたいと思っています。企業誘致をトップセールスで御尽力いただきたいと思っています。

西岡市長

まず、博物館についてですが、先日、来年度の県知事要望ということで、博物館についても県の支援をいただきたいと要望をさせていただきました。今、秋山委員が言われたように、ワクワク感のある、全国に誇れるようなところを整備していかないといけないと思っています。色々な先進事例を聞くと、博物館をつくるのにすごく時間がかかるようなことを聞いていますので、そういった面を踏まえまして、今後しっかり取り組んでいきたいと考えております。

また、色々な方に来ていただくためにもバスの必要性があります。このバスというのは、学校に行くスクールバスも含めてであります。地域交通というところで、現状のバス路線からもう一つ見直しをかけて、使い勝手のいいバス路線を構築するよう、指示を出して動いている最中です。これにつきましても、しっかり取り組んでいきたいと思っています。

最後に若者定住のための企業誘致についてですが、先日も企業誘致に行ってきました。今、企業誘致も難しい時代になってきていますが、企業誘致だけで

なく、先ほどから話が出ていますが、ICTを活用してこの地域で学んだ子どもたちがこの地域で起業できるような取り組みが必要かなと思っていますので、その辺についてももしっかり取り組んで行きたいと思っています。

岡崎教育長

井上委員から、先生方の地域行事への参加が少ない、なかなか難しいという話をいただいた。補助員とか支援員を配置するのも一つの方法ですし、もう一つは業務改善を各学校がやっていかないと先生方の負担が減らないと思います。教育委員会として、教育長として、学校にしっかりお願いしていきたいと思っています。もう一つ大きいのは校長先生のリーダーシップだと思います。校長先生が、地域にしっかり出て行こうということで、先生方が地域に出れば、学校で見えない子どもたちの姿を、違った面を見ることもできると思います。また、校長先生方に、校長先生のリーダーシップのもと、地域行事へ参加するよう、お願いしたいと思っています。

秋山委員

現在、学校と地域を結ぶコーディネーターが重要な働きをしていると思います。引続いてこの予算措置をお願いしたいと思っています。

西岡市長

しっかり、みていきたいと思っています。

その他、ございませんでしょうか。

今日、議題にさせていただきました「教育環境の整備」と「地域教育の充実」についてですが、私の考えと教育委員の皆さんのお考えを、ぶつけ合うことができたと思います。そのなかで、色々なご意見やご要望をいただきました。ご要望等いただいたことには、しっかり対応できるよう取り組んでまいりたいと思っていますし、私の考えている方針と、教育委員の皆さんが考えられている方針に、そんなにズレがないように思っております。そういった面では、これからも、この方針で進めさせていただければと思っていますが、そういったことでよろしいでしょうか。

(異議なしの声あり)

ありがとうございます。今回これで議事を終了させていただきますが、そのほか、全般にわたりまして、ご意見、ご要望等ありましたらお伺いしたいと思います。

特にないようでしたら、終わりにあたり、私から一言申し上げます。

本日は、教育長、教育委員の皆様、ご多忙のところ、ありがとうございます。皆様より貴重な御意見をいただき、教育振興・教育充実という大海原を、岡

崎教育長の「岡崎丸」が目的地に向かって、どのような航路で進んでいるのか、進んで行こうとしているのかが、大変よく分かりました。また、私の政策の方向性も教育委員会の皆さんにお伝えすることができ、方向性も皆様と同じベクトルであったと思います。大変有意義な会であったと思っております。

また、皆さんから頂いた貴重な意見を踏まえ、子どもたちの未来が輝かしいものとなるよう、そして、美祢市で子どもを産み、育てたいと願っていただけるよう、「岡崎丸」の航海を支援していきたいと思っております。

今後とも、教育委員会と連携を密に取り合いながら、「教育充実都市」の実現に向けて取り組んでいきたいと思っておりますので、今後とも忌憚のない御意見、ご協力をよろしくお願ひしたいと思っております。今日は、本当にどうもありがとうございました。

金子事務局長

ありがとうございました。また、大変お疲れ様でございました。以上をもちまして、平成 28 年度第 1 回美祢市総合教育会議を終了いたします。本日は、お忙しいところありがとうございました。